

多賀地区津波防災まちづくり事業

事業概要

東日本大震災の津波で住家被害が最も大きかった市川(多賀)地区において、地元住民などからの意見を踏まえて「多賀地区復興まちづくり計画」を策定し、計画に基づき、避難道路や防災まちづくりの拠点となる津波避難ビルなどを整備

➤ 計画の内容

避難の 考え方

原則徒歩避難（避難時間：地震発生後45分以内）

※一部自動車での避難を容認
(徒歩避難が困難な地域の住民、災害時要援護者とその支援者)

対策の 考え方

・避難路の整備

周辺の高台（多賀台団地、桔梗野工業団地）まで、五戸川を越えずに円滑に避難できるよう道路拡幅や歩道を整備

・津波避難施設の整備

万が一逃げ遅れた避難者が一時的に避難する施設を整備
(五戸川北側：避難複合施設 五戸川南側：避難タワー)

・ソフト対策の推進（自助[住民]・共助[地域]・公助[行政]の連携）

[住民] 避難ルールへの順守、災害時要援護者の把握、実践的な避難訓練
[地域] の実施など

[行政] 避難誘導標識の設置、津波避難計画の改訂・周知など

多賀地区復興まちづくり計画



この計画は、東日本大震災の津波により、市内でもっとも大きな住家被害を受けた市川町多賀地区において、今後想定される最大クラスの津波から人命を守ることを最優先に、より安全で円滑な津波避難を可能とするための総合的対策として、避難路や津波避難施設の整備、およびソフト対策をまとめたものです。

計画の策定にあたっては、学識経験者や地元代表者等で構成する多賀地区復興まちづくり計画検討委員会を設置し、4回の会議を開催するとともに、地元の声を反映させるため、地区住民アンケートや関係団体ヒアリング、地元説明会や意見交換会を実施しました。

平成25年3月

八戸市

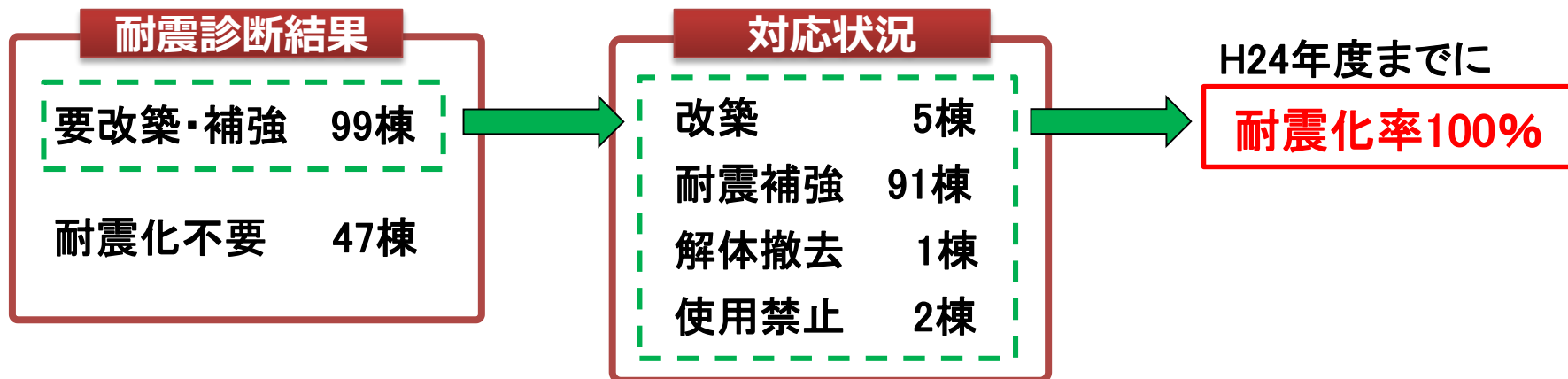
多賀地区復興まちづくり計画
(H25.3.21策定)

学校施設の耐震化

事業概要

昭和56年以前の旧耐震基準により建設された小・中学校50校146棟の耐震診断及び必要に応じた改築・耐震補強工事等の実施

実施状況



耐震補強された八戸小学校校舎



移転・改築された柏崎小学校



三陸沿岸道路（復興道路）の整備



事業概要

- 八戸市から仙台市までの太平洋岸を結ぶ総延長359kmに及ぶ自動車専用道路
- 東日本大震災を契機に、国直轄による復興のリーディングプロジェクトとして全線事業化
- R3年中に全線開通予定

